

科目名	生体機能代行装置学概論					授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	8	回	時間数	15	時間	1	単位	配当学年時期	1年	通年
【授業の目的・ねらい】 医療機器全般に関する概要及び医療従事者・実習生として相応しい態度、医療機関に出入りする者として必要な心構えを身につける。本講義を生体機能代行装置学、治療機器学、計測機器学を学ぶ準備という位置づけとする。										
【実務者経験】 臨床工学技士として舞鶴共済病院や神戸大学医学部付属病院等で、慢性維持透析業務や人工心肺・急性期の血液浄化・救急医療等の業務に従事経験。										
【授業全体の内容の概要】 各医療機器の使用目的、構造及び機能について、臨床工学実習室での機器を用いた説明・実習及びスライドによる説明を行う。										
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・医療機器全般についての概略を知り、簡単な説明ができるようになる。										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	授業ガイダンス、1次救命処置：心肺蘇生とAED									
2	代謝分野概論（血液透析、腹膜透析、アフェレーシス）									
3	代謝分野実習（血液透析回路のプライミング）									
4	呼吸分野概論（人工呼吸器）									
5	循環分野概論（人工心肺、心臓カテーテル）									
6	その他の生命維持管理装置（補助循環、人工心臓、ペースメーカー）									
7	小児領域における生命維持管理（循環、呼吸、代謝）									
8	治療機器学概論（電気メス、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器）									
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学技士標準テキスト第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社										
【準備学習・時間外学習】 ・準備学習として教科書を読み込んで講義に臨むこと ・講義後は実習室の機材と教科書を用いて自分なりの理解を深め、講義の要点をまとめること										
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 実技試験を30点、定期試験を70点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する										